

防コミの歩き方



南海トラフ巨大地震に備え、津波避難訓練を実施

南海トラフ巨大地震に備え、魚崎町防災福祉コミュニティは6月22日、津波避難訓練をおこないました。9時30分に地震が発生し、大津波警報が発表された想定で、雨が降る中、地域住民が国道2号線より北にある住吉川東緑地を目指して、避難しました。

魚崎町防災福祉コミュニティは、「地域おたすげガイド」を3月に作成しました。「地域おたすげガイド」は、災害時に組織的な活動ができるよう、事前に初動対応計画を作成しておき、災害時は、この計画書をもとに、避難してきた住民に優先すべき必要な役割をお願いし、被害の軽減につなげることを目的としたマニュアルです。

今回の訓練では、この「地域おたすげガイド」に定めた計画の検証もおこないました。

まず「地区統括防災リーダー」は、住民



班ごとに色分けした腕章
赤いマジックテープ付きは班長

から得た情報をもとに安全な避難ルートを選定し、避難の際は火災の発生状況や建物の倒壊状況などさまざまな情報を把握し、速やかに住民を国道2号線より北へ避難誘導しました。また先に到着した防コミメンバーは、住吉川東緑地にて「本部統括防災リーダー」が運営本部を立ち上げ、地

域の被害情報を把握し、各班長に防災活動に関する指示を出す訓練を実施しましたが、災害時に組織的な活動ができるようになるには、これからも訓練を重ねていく必要性を痛感いたしました。



この津波避難訓練は、本山第二小学校区防災福祉コミュニティ、東灘消防団と連携して実施しました。本山第二小学校区防災福祉コミュニティは、魚崎地区からの避難者を受け入れるため、テントを設営して水を提供したり、避難場所付近で避難誘導をおこなったりしていただきました。隣接する防コミ同士がお互いが抱える課題を共有し、協力しながら、『災害時には地域から一人の犠牲者も出さない』という強い信念を持って、今後も地域防災に取り組んでいきたいと思っております。

最後に『自助に勝る、共助無し!』。

(魚崎町防災福祉コミュニティ

副会長 清原孝重)